

研究主題

「思い」を生かして、生き生きと表現する児童の育成

～自己肯定感を高める活動を基盤として、児童の主体性を伸ばす授業の実践～

1 これからの児童に求められている力とは

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」に突入する中、新型コロナウイルスの感染拡大等によって、これまで社会や学校の「当たり前」も大きく変化してきた。先行き不透明な「予測困難な時代」が現実のものとなった。そんな中、我が国の教育をめぐる現状・課題・展望を踏まえ、第4期教育振興基本計画の教育政策におけるコンセプトともいえるべき総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられた。児童には、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」になることが一層求められている。特に学校教育現場においては、必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現させていくことが重要となる。この実現に向け、埼玉県では「主体的・対話的で深い学び」の視点をもとにした授業改善に加えて、「学級経営」が児童の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、児童の学力向上に繋がるといった指針を示している。ここで述べられている「非認知能力」とは、たし算、漢字の読み書きができる力等のいわゆる学力とは異なる、自己効力感ややり抜く力等の能力全般のことを指している。

本校では以上の指針を受け、児童の「思い」を大切に学習指導を行っていくことで、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識しながら学習することが重要であると考えた。

2 児童の実態（本校の課題）

本校では、学校教育目標「よく励む子 心さわやかな子 粘り強い子」の具現化に向けて、「自ら考え、様々な人と協働しながら主体的に課題を解決していく児童」、「多様な考え方を認め、自己を律することができ、他者を思いやることのできる児童」、「心身ともに健康でたくましい児童」となるよう「児童一人一人が学ぶ喜びを味わい、一人一人に居場所がある学校づくり」を目指している。本校の児童の学力については、「上尾市学力調査」、「埼玉県学力学習状況調査」、「全国学力・学習状況調査」等の結果から、基礎的・基本的な知識・技能は定着してきているといえる。しかし、実際の授業の場面では、自分の思ったことを伝えるだけで他者の考えを聞く力に乏しいこと、考えの根拠がもてないこと、自己効力感ややり抜く力などの非認知能力が低いことが課題としてあげられる。また、学習方略における柔軟的方略の数値が低いことからみても、学習する対象に自ら働きかけ、感じたことや考えたことの意味や価値を見いだしながら学びを深めようとする主体性に課題があるといえる。これらは、PISAの学力調査に示されている、「正解にいたる以前にそのアプローチを放棄してしまう」日本の児童実態とも共通している。

3 研究主題設定の理由

本校の課題を解決するためには、一人一人が感じたことや考えたことを豊かに表現する力を育てること、多様な考えをもつ他者を価値のある存在として尊重し、協働しながら課題解決していく教室をつくることが必要不可欠である。そのためには、児童一人一人が対象や事象を様々な角度から捉え、思いを深めたり、感じたことや考えたことを自由に表現したりする活動が重要となる。そうすることで、自分なりの意味や価値を見だし、自分自身のよさに気付くことができるような学びの実現ができると考える。そこで、本校では児童が様々な角度から物事をとらえ対象に働きかける

中で、自らを成長させていく図画工作科の特性を通して、造形的な表現活動や鑑賞活動を行うことが有効であると考え、教科を設定し、研究を進めることとした。

図画工作科を通して目指す資質・能力の育成に当たっては、「生きて働く『知識及び技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養」の3つをバランスよく、大切に育てていくことが重要である。小学校学習指導要領図画工作科編では、目標の柱書に「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」と示されている。そこで、本校の研究を通して児童一人一人が自分の「思い」と向き合い、知識及び技能を働かせるための【材料や用具と向き合う時間】と【児童の気づきに共感する働きかけ】、創造的に発想や構想を行っていくため、表したいことを見つけるための【自己決定のきっかけづくり】や自分の見方や感じ方を深めるための【対話を生み出す工夫】、つくりだす喜びを味わい、夢中になって活動する児童を育成するための【語る】場を設定した指導を行っていく。自分と向き合って生まれたもののよさや可能性に気付くことを通して、自分自身のよさや可能性を再発見できる児童を育てていきたい。このような指導を充実させていくことで、学習する中で自分と向き合い、つくりだす喜びを味わいながら表現したり鑑賞したりし、自己実現する児童を育成するとともに、自分の「思い」に合わせて、表したいことや表し方を自己決定し、自分自身のよさや可能性を見だしながら、よりよい生活や社会を創りだしていこうとする児童を育成することができると考えた。

以上のことから、研究主題を「『思い』を生かし、生き生きと表現する児童の育成 ～自己肯定感を高める活動を基盤として、児童の主体性を伸ばす授業の実践～」とした。

4 目指す児童像

「思い」を生かして、生き生きと表現する児童

「思い」を生かす … 学習の中で、自分と向き合い、つくりだす喜びを感じながら、自己実現していこうとする姿

生き生きと表現する… 自分の「思い」に合わせて、表したいことや表し方を自己決定し、自分の活動を通して、自分自身のよさや可能性を見出す姿



＜図画工作科における具体化した姿＞

自分の見方や感じ方と向き合い、表したいことや表し方を自己決定しながら、造形的な視点を働かせ、表現したり鑑賞したりして自己実現していく姿

目指す児童のビジョン



| 知識及び技能 | 思考力, 判断力, 表現力等 | 学びに向かう力, 人間性等 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • この色でぬりたい! • こんな材料でつくりたい • ○○の用具を使いたい • 前やった技法でやってみよう • 形に(色に)こだわってみよう | <ul style="list-style-type: none"> • ○○を表してみたい • こうやって表していこう • 組み合わせてみよう • どれにしようかな • こっちにも○○しよう • もっと○○してみよう | <ul style="list-style-type: none"> • 早くやりたいな • よし、やってみよう • 最後までやり切るぞ • もっとつくりたいな • 次は、○○を表してみよう • いい感じにできたぞ |

5 研究と手立てのつながり

(1) 研究の視点 (手立て)

手立て①

「材料や用具と向き合う時間」の設定と「児童の気づきに共感する働きかけ」

(知識及び技能)

材料や用具にたくさん触れ合う時間を設定し、教師の共感的な働きかけや児童同士の気づきを共有する働きかけを位置付けることで、児童一人一人が自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な視点を理解し、既習の知識や技能を働かせて生き生きと表現する児童の育成につながるであろう。

手立て②-1

表したいことを見つけるための「自己決定のきっかけづくり」

(思考力, 判断力, 表現力等)

授業導入を工夫し、自己決定のきっかけづくりを行うことで、形や色などを基に想像を膨らませ、表したいことをより豊かに発想し、自分の「思い」を生かして主体的に学習に取り組む児童の育成につながるであろう。

手立て②-2

自分の見方や感じ方を深めるための、「対話を生み出す」工夫

(思考力, 判断力, 表現力等)

教師や児童同士の対話が自然と生まれる時間や環境の設定を行い、教師が共感的に働きかけることで、児童一人一人が、表したいことを見つけ、どのように表すかについて構想しながら自分の見方や感じ方を深め、自分の「思い」と向き合って学ぶ児童を育成することにつながるであろう。

手立て③

つくりだす喜びを味わい、夢中になって活動する児童を育成するための「語る」場の設定

(学びに向かう力, 人間性等)

題材設定の工夫や、児童が自分なりの価値や意味を見いだすための工夫を行い、児童の「思い」を語る場を位置付けることで、一人一人が感じたつくりだす喜びを主体的に表現し、自分のよさや可能性を認識する児童の育成につながるであろう。

各学年ごとの目指す姿

| 知識及び技能 | 思考力, 判断力, 表現力等 | 学びに向かう力, 人間性等 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">手や体全体の感覚を使って活動し、材料や用具のよさに気付き、表す。様々な表現を使って思い切って活動し、材料や用具のよさが分かり、表す。表現方法を吟味しながら試行錯誤して活動し、材料や用具のよさを理解し、表す。 | <ul style="list-style-type: none">「思い」をもち表し方を考え、楽しく活動し、自分の見方や感じ方を広げる。「思い」をもち表し方を考え、豊かに活動し、自分の見方や感じ方を広げる。「思い」をもち表し方を考え、創造的に活動し、自分の見方や感じ方を深める。 | <ul style="list-style-type: none">楽しく活動し、つくりだす喜びを味わう。進んで活動し、つくりだす喜びを味わう。主体的に活動し、つくりだす喜びを味わう。 |

(2) 手立ての具体

| 【研究内容】 | | | |
|---|---|--|--|
| <p>【手立て①】 自分の感覚を十分に働かせるための、材料や用具と向き合う時間の設定</p> | <p>【手立て②-1】 表したいことを見つけるための、「自己決定のきっかけづくり」</p> | <p>【手立て②-2】 自分の見方や感じ方を深めるための、「対話を生み出す」工夫</p> | <p>【手立て③】 つくりだす喜びを感じ、夢中に活動する児童を育成するための、「語る」場の設定</p> |
| <p>① 材料や用具と向き合う時間の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・布材料に十分触らせる時間の設定（色や形、触り心地） ・児童が見つけた造形的な表現方法を紹介する時間の設定 | <p>① 授業導入の工夫</p> <p>○身近なものを見つめ直す活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を拡大したり、引いてみたりするICTの活用 ・2枚の板紙をきっかけに、折ったり、切ったりできることを考える活動の設定 <p>○自分の感性と向き合う活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「普通の山」と「へんてこ山」を比較する時間の設定 ・色や形が豊富な鑑賞用の絵（抽象画）を示す資料提示の工夫 ・体全体を使って動作化する場面を設定 <p>② 自己決定を促す環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いに合わせて、描画材や材料を選択できる環境づくり ・ビー玉を転がしながら、試行錯誤して創作できる環境づくり ・新しい形を考えて思考錯誤する活動の設定。（材料の面白さが分かる時間の設定） ・漢字1字の形をきっかけとして、主題をもたせるための工夫 ・アドバイスコーナーの設置 | <p>① 表したいことを見つけるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や児童同士が対話する場面の設定 ・つぶやきが自然と聞こえてくる環境の設定 ・思いや意図を引き出せるような声掛け ・感性や想像力を働かせる板書の工夫（やってみたいこと、想像できること） ・教師が用意した作品の鑑賞 ・友達のイメージする形や線を見合ったりする時間の設定 <p>② どのように表すか考えるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然な対話が生まれる材料置き場の設定 ・さまざまな方向から見たり、鑑賞したりできる場の設定 ・作品を吊るす場（ツール）を設定し、つくりながら見方を広げる環境づくり ・新しく生み出した形を全体で共有する時間の設定 | <p>① 題材設定の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材名の工夫（造語（新たなものを創り出す）、ゴールの姿の連想、活動の見通し等） ・題材名の掲示の工夫 ・児童にとって一番身近な内容の設定 ・画用紙の工夫（オリジナルの色） <p>② 自分なりの意味や価値を見出すための工夫</p> <p>○形や色などとの関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像したものについて語らせる場面の設定 ・感じたことを言語化させる時間の設定 ・できた形からストーリーを考える活動の位置づけ ・毎時間鑑賞の時間を設（振り返りの時間、ICTを活用した振り返りカード） <p>○他者との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に込められたストーリーを語る時間の設定 <p>○材料や環境との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートを活用し、楽しく「思い」を語る仕かけ |

